

はばたく

バイオグリッドセンター関西理事

坂田 恒昭さん(51)



創薬に必要なタンパク質の選択から疾患に効果のある化合物の合成にいたるプロセスをサポートする国内初のネットワーク「創薬バリエーション」が、NPO(民間非営利団体)「バイオグリッドセンター」

「創薬に必要なタンパク質の選択から疾患に効果のある化合物の合成にいたるプロセスをサポートする国内初のネットワーク「創薬バリエーション」が、NPO(民間非営利団体)「バイオグリッドセンター」

世界に通用する新薬開発へ

「創薬バリエーション」は多い。しかし創薬は世界的に競争が激化している。(新薬の種となる)化合物を提供しないと製薬企業から評価されない」と指摘する。

創薬バリエーションには、大阪大学をはじめ京都大学、大阪府立大学、産業技術総合研究所関西センターや大学発ベンチャーの創品(大阪府茨木

市)、さらには富士通、NECという大手コンピュータメーカーや製薬企業二社も加わるなど産学官が連携した。

第一弾はアレルギー疾患用の創薬。井上豪・大阪大学助教授が中心となつて進める「阪大創品プロジェクト」から生まれたタンパク質化合物をモデルに、コンピュータ解析を行い新薬に結びつく化合物を作り出す。

開発には、高輝度放射光施設「Spring-8(スプリングエイト)」「兵庫県佐用町)やスーパーコンピュータ「地球シミュレーター」(横浜市金沢区)を活用するなど一大プロジェクトとなる。

「要素技術に優れたベンチャーも育ってきた。今回の試みで、創薬の新しい流れをつくりたい」と期待を膨らませる。

(真岸克治)